広報ふじ

61.10.5

新市20周年記念
特集号

21世紀へダッシュ……2・3
富士のあゆみ 20年の歴史……4・5
市民は語る
21世紀をこんな富士市に……6・7
田子の浦港ストーリー……8

新たな創造
確かな発展
―はたちの富士市―

紀へダッシュ

7月に行われた富士市青少年の船で21世紀を担う若者は語り合った

昭和四十一年にできた新生富士市は、こ
としで二十歳を迎えました。ひとくちに二
十年と言ってもその道のりは決して平たん
なものではありませんでした。しかし、公
害問題、石油危機などのハードルを乗り越
えて足腰の強い青年工業都市となった今、
富士山をシンボルに新たな目標に向かって
はばたこうとしています。

県東部の中核都市へ

今の富士市は、吉原市、富士市鷹岡町の旧二市一町が合併して昭和四十一年十一月一日に産声をあげました。

当時のまちは、面積二百十五・三四平方キロメートル、人口は十六万四千九百三十二人、世帯数は三万七千七百七十六世帯で、人口は県内五番目でした。

合併までの経過は決して容易なものではありませんでしたが、古くから岳南地区の一員として、政治、経済、文化、交通など、あらゆる面で密接な関係にあった二市一町が大同団結をしました。

それから二十年。二十歳となった富士市は、着実な歩みで将来に大きな可能性を秘めた青年工業都市に成長しました。

昭和六十一年九月一日現在、人口は合併時より約五万三千人ふえて二十一万七千九百十八人、世帯

統計で見る富士市

	昭和41年	昭和61年	昭和70年(予想)
人口	16万4,932人	21万7,918人	23万1,600人
世帯数	3万7,776世帯	6万2,091世帯	7万1,700世帯
1世帯当たり人員	4.37人	3.50人	3.23人
老齢人口構成比	4.9%(40年)	8.4%	11.3%
市一般会計当初予算	37億7,260万円(42年)	503億円	――
工業出荷額	1,811億円	1兆4,245億円(60年)	2兆1,450億円
商業販売額	550億円	5,656億円(60年)	9,350億円
農道整備	――	9万9,153㍍(60年)	15万1,000㍍
1人当たり都市公園面積	0.5平方㍍	4.4平方㍍	5.8平方㍍
下水道普及率	0%(40年度末)	29.9%(60年)	51%
小学校の数	17校	22校	23校
公民館の数	4館	20館	22館
多くつけられた名前(男)	1位　カズヒロ	1位 ユウキ　(60年)	――
〃	2位　ヒロユキ	2位 ユウスケ(60年)	――
〃	3位　ヨシヒロ	3位 ユウタ　(60年)	――
〃　(女)	1位　ヒロミ	1位 ユキ　(60年)	――
〃	2位　マユミ	2位 カオリ　(60年)	――
〃	3位　ヨウコ	3位 ユカ　(60年)	――

20歳の富士市

数は約二万四千世帯ふえ、六万二千九十一世帯となりました。人口では県東部一の都市となり、文字どおり中核都市として重要な役割を果たしてきています。

工業は、地場産業の紙・パルプを中心に、自動車、電気製品、化学、薬品工業などで、製造品出荷額等は、一兆四千二百四十五億円（昭和六十年）に達しています。これは、浜松市に次いで県内第二位です。

一方、商業は、昭和六十年の販売額が五千六百五十六億円で、合併時に比べて約十倍に伸びました。

公害等諸問題も克服

しかし、富士市も二十年間すべてが順調に進んできたわけではありません。

昭和四十年代から顕著に見られた、田子の浦港のヘドロや大気汚染などの公害は市民の皆さんの記憶に焼きついていると思います。

また、富士・愛鷹山麓の開発問題は、自然保護や災害防止の面から重要な問題でした。

加えて発生したオイルショックは、富士市の産業にも大きな影響を与えましたが、市民の皆さんの努力でこれらの諸問題を乗り越え、「生産と生活が調和する産業文化都市」づくりが進められました。

その結果、道路・河川・下水道・公園などの生活環境整備、及び医療・福祉・教育・文化・スポーツ施設など、二十二万都市として必要とされる都市機能の整備も着実に推進されました。

新たなまちづくりを推進

そして、今年、「ふじ二十一世紀プラン」がスタート。〝富士山をシンボルに　みどりあふれる文化と産業のまち〟を都市像として掲げています。

これは、予想される東海地震への対策、緑化と都市環境保全の問題、新幹線新駅の設置、大学の誘致、また、やがて来る高齢化社会・高度情報化社会への準備など、二十一世紀を展望して新たな対応をするものです。

富士市は今、二十周年を契機に、明るく豊かで住みよいまちの建設を目指して新たなステップをしようとしています。

おめでとう　二十歳のわが街

市章のとおり順調に発展

鳥居定夫さん(六十四歳)下横割南

鳥居さんは昭和四十二年、市章の一般公募に応募し、いまの市章を考え出しました。

「私は全くの素人ですので、当選するなんて、夢にも思っていませんでした。同窓会などでは、私の顔を見ると市章を思い出すという人もいまだにいます。富士市は市章のいわれのとおり順調な発展をし、一市民として大変うれしく思っています。青年都市富士市にこれからも期待しています。」

富士市の大きさにびっくり

佐野さゆりさん(二十三歳)鷹岡本町一

さゆりさんは「物心ついたときには富士市民」というOL。

「先日富士登山をして、富士山の大きさもさることながら、富士市の大きさにもびっくり。私たちはすばらしい自然環境のもとにいるんですね。できれば、富士の商店街がもう少しファッショナブルになるといいな。そうすれば、若者にとって、もっと楽しいまちになると思います。」

たくましく20年

昭和四十一年といえば、NHKの「おはなはん」が茶の間の話題をさらった年。物がどんどん値上がり、物価戦争ともいわれた年です。

富士市はこの年生まれ、二十歳に成長しました。市民の皆さんの二十年と富士市の二十年を重ね合わせてごらんください。

昭和41年の合併調印式

昭和48年に完成した市民プールはことしも大変なにぎわい

台風20号で打ち上げられた貨物船は当時大きな話題に(昭和54年)

最新鋭の設備を誇る第一清掃工場(昭和六十一年)

1、富士山のように　高く　教養を深め　視野のひろい市民となります

History

昭和52年（1977年）
- 浮島工業団地造成事業完了、工場移転。
- 蓼原大橋が開通。
- 四代目市長に渡辺彦太郎氏当選。
- 市民の生活環境をよくするための「生活緊急整備事業」がスタート。

昭和53年（1978年）
- 世界で4番目の二重構造ブリッジ型溶岩洞穴が厚原で発見される。
- 勤労者体育センターがオープン。
- 市立中央病院にX線断層装置を導入。

昭和54年（1979年）
- 大規模地震対策特別強化地域に指定される。
- 下水処理場、西部浄化センターが通水を始める。
- 富士木材センターがオープン。
- 富士高校が甲子園へ出場。
- 台風20号により柏原海岸に外国の大型貨物船が打ち上げられる。
- 障害者福祉都市に指定される。
- 製造品出荷額等が1兆円を超える。

昭和55年（1980年）
- 県下初の高齢者事業団「富士市シルバー人材センター」が発足。
- 国道1号線沼津バイパス全線開通。
- ボランティアセンター「ほのぼの広場」ができる。
- 社会福祉センター「田子浦荘」が完成。

昭和56年（1981年）
- 市立博物館が広見公園内にできる。
- 不燃ごみの分別収集が始まる。
- 吉永第二小学校、吉原第三中学校の勢子辻分校が閉校される。
- 五代目市長に渡辺彦太郎氏当選。
- 寝たきり老人短期保護事業がスタート。

昭和57年（1982年）
- 養護老人ホーム「駿河荘」オープン。
- 総合運動公園に陸上競技場オープン。
- 松岡瑞林寺の延命地蔵菩薩像、国の重要文化財に指定される。
- 新幹線富士駅設置促進期成同盟会が発足。
- 台風10号により東海道本線富士川鉄橋の橋脚が流出。

昭和58年（1983年）
- 西富士道路埋蔵文化財発掘調査結果がまとまる。
- 富士を映す水とみどりの市民公園「中央公園」の基本計画まとまる。
- 富士市民憲章が制定される。

昭和59年（1984年）
- ボケ老人専用の「天間荘」が完成。
- 「富士市施設利用振興公社」を設立。
- 新市立中央病院オープン。
- 彫刻のある橋、潤井川大橋が完成。
- 国際植生学会シンポジウムを開催。
- 東海道新幹線富士駅設置決定。

昭和60年（1985年）
- ふるさと村春まつりを開催。
- 「片倉雨水貯留池」が完成。
- 東海道新幹線富士駅建設着工。
- 「核兵器廃絶平和都市宣言」を行う。
- 六代目市長に渡辺彦太郎氏当選。

昭和61年（1986年）
- 田子の浦港に山部赤人の歌碑を建立。
- 新第1清掃工場が完成。
- 緑に囲まれた斎場が完成。

History

昭和41年（1966年）
- 吉原市、富士市、鷹岡町が合併して新富士市ができる。人口16万4,932人。
- 初代市長に斉藤滋与史氏が当選。

昭和42年（1967年）
- 富士市の市章と市民歌ができる。
- 「交通安全都市宣言」を行う。
- 岳南食肉センターが操業を開始。
- 今泉沖田地先で弥生時代後期の遺跡を発見。
- 精神薄弱児施設ふじやま学園が完成。

昭和43年（1968年）
- 市民の花(バラ)、市民の木(くすの木)が市民の応募によって決まる。
- 東名富士インターチェンジが開通。
- 港まつりを富士まつりに改称して盛大に実施。
- 行政事務に電子計算機を導入。

昭和44年（1969年）
- 富士川火力発電所建設にかかわる事件発生。
- 企業と公害防止協定を結び始める。
- 国鉄身延線が市内で西回りに変更され同時に複線化される。
- 市文化財保護条例に基づき、初の文化財（内行花文鏡・五輪塔など)を指定。

昭和45年（1970年）
- 新市庁舎完成。4月1日開庁する。
- 二代目市長に渡辺彦太郎氏当選。
- 精神薄弱者施設くすのき学園が完成。
- 富士川に工業用水専用の水管橋が完成。

昭和46年（1971年）
- 公害病患者の医療救済が始まる。
- 田子の浦港のヘドロ処理作業が始まる。
- 吉原遺族会一行を乗せた全日空機が墜落。会員122人が死亡。

昭和47年（1972年）
- 社会福祉センター「広見荘」ができる。
- 第1清掃工場のごみ焼却プラント完成。
- 商業販売額が1,000億円を突破。

昭和48年（1973年）
- 市民プールができる。
- 工業製造品出荷額が県下一となる。
- 三代目市長に渡辺彦太郎氏当選。
- 0歳児の保育を元町保育園で始める。

昭和49年（1974年）
- 富士・愛鷹山麓の大規模開発を規制。
- 丸火に少年自然の家、自然館ができる。
- ヘドロ埋立地を利用した富士川緑地公園ができる。
- 7月7日の七夕豪雨で死者1人、被害総額15億円。
- 公害病認定患者に医療費等を補償する。

昭和50年（1975年）
- 住民登録人口が20万人を突破。
- 国道1号線富士由比バイパスが開通。
- 南富士ゴルフ倶楽部の強行建設に市民団体が抗議。
- 重度障害者福祉手制度が発足。

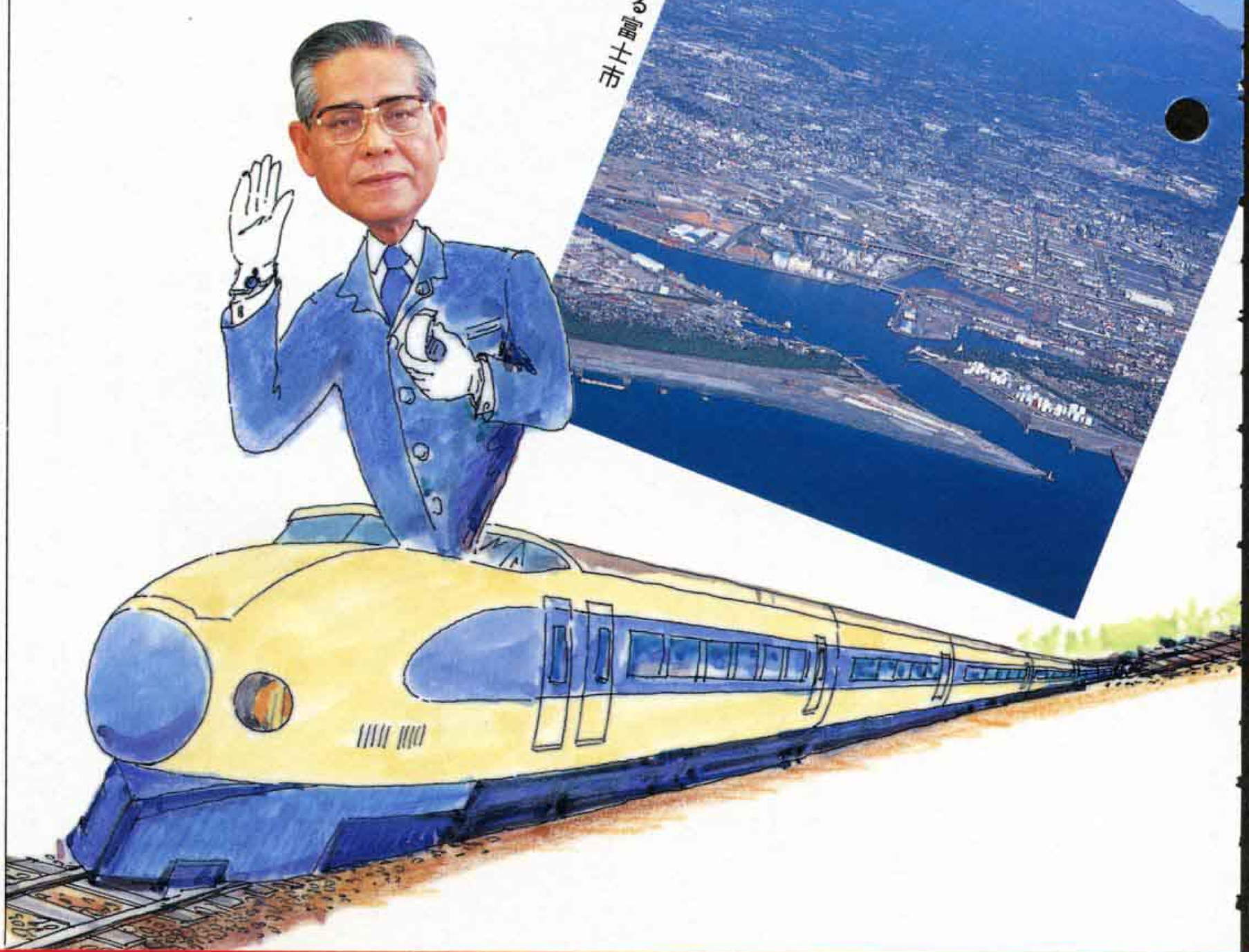
昭和51年（1976年）
- 公設地方卸売市場がオープン。
- 第2清掃工場し尿処理施設増設プラント完成。（1日110㌔処理)
- 総合運動公園野球場がオープン。
- ロシアの軍艦ディアナ号のイカリが三四軒屋沖の海底から引き揚げられる。
- 8月9日の集中豪雨、時間雨量94ミリを記録。

昭和41年～昭和61年

着実に、

今は大きくさま変わりした市役所周辺

これからも発展が期待される富士市



1、富士山のように　たくましく　働くよろこびをもち　健康な家庭をつくります

二十一世紀をこんな富士市に

富士市はことし、昭和七十五年(西暦二千年)を目標年次としたまちづくり計画「ふじ二十一世紀プラン」を策定しました。その多くの課題の中から、高齢化社会、新幹線新駅、文化会館、保健婦人センターについて、四人の市民の方に、考えや要望、意見をお聞きしました。

ひとり暮らし老人に、優しい声をかけてくれる富士市に。

小林　糸子さん　(上和田町)ボランティア

食事サービスのボランティアを始めて三年がたちました。食事サービスとは、ひとり暮らし老人の家へ一週間に一度、駿河荘(老人ホーム)でつくった食事を運ぶものです。

食事の献立が老人向けでおいしく、しかも安いとあってお年寄りには大変好評です。

また、食事を運ぶことを通じて話し相手にもなり、今ではお年寄りが首を長くして待っていてくれます。

これから、高齢化社会を迎えてひとり暮らし老人や老人世帯は、ますますふえます。そんなとき、周りの人々が気楽にボランティアとしてお年寄りに声をかけてくれるような富士市になってほしいと思います。

また、元気なお年寄りは、お年寄りなりの社会参加ができるような行政を考えてください。

新幹線新駅は、富士山をシンボルにした形がいいな。

渡辺　裕久君　大渕第一小学校六年生

新幹線新駅は昭和63年春には開業します

ぼくは、もうすぐ富士市にも新幹線の駅ができるというので、友達と一緒に駅のことを考えました。

駅の建物は外国人にも来てもらいたいので、富士山をシンボルにして、大きく目立つ形にしたらいいと思います。

駅の一番上はレストランと展望台にしてその下はデパートにします。改札口は、駅員さんも楽になるよう全自動のロボットをつけます。

そして、立派な駅でも汚ない駅だと嫌われるので、ゴミ一つないきれいな駅にしたいと思います。

ぼくは、新幹線が富士市に止まったら、まず一番に乗ってみたいです。

中里神楽の「剣の舞」

富士市には立派な文化がある。文化会館は、富士市に最適なものを。

河野　勝義さん　（富士本町）富士市文化連盟会長

「富士市は文化がない」とよく耳にすることがあります。本当にそうでしょうか。私は、それは大きなまちがいだと思います。「文化がない」とおっしゃる人は「文化」の意味をひどく高級で難しいものとお考えではないでしょうか。

私は文化とは「その道を志し、その道にいそしむことで人の心を豊かにし、潤いをもたらすもの」と解釈しています。

ですから、決して高尚な音楽や絵画を楽しむことだけが文化ではありません。ご婦人が民謡を歌ったり、お年寄りが陶芸を楽しみ、仲間の輪を広げていけば、これはもう立派な文化といえます。

そして、文化は地方の特色があり、富士市には富士市の文化があるのです。

ましてや、富士市にはこれが文化だといえるものがあります。それは、市民憲章です。市民憲章の条文には直接文化という言葉は出てきませんが、表現していることは、富士市の文化そのものです。

ところで、私は、近い将来建てられるという文化会館に大きな期待を寄せています。

一言に文化活動と言っても、ステージを使用する団体もあれば、展示室を必要とする団体もあります。また、音響を優先する団体もあれば、ホールの大きさを第一に考える団体もあります。そういいろいろな団体の現況をまず把握して、どのような文化会館が、富士市の文化にとってベストなのか検討してほしいと思います。

文化会館が市民に文化の場と情報と機会を提供してくれる文化の要となることを期待します。

保健婦人センターで、婦人のネットワーク化を期待します。

森下　操子さん　（宮島新田）健康づくり推進員

五年前、からだが丈夫でなかった私が、ひょんなことから健康づくり推進員となりました。

いろいろな活動の中で、ことしは、「健康は丈夫な歯から」と歯科衛生士さんとともに、親子の歯磨き講習を行っています。子供向けに紙芝居をしたり、おやつの与え方なども研究しています。

さて、昭和六十二年度から現在の県合同庁舎跡に保健活動や婦人活動の拠点となる保健婦人センターの建設が始まると聞き、完成を心待ちにしています。

健康づくり推進員の活動で市役所に行きますが、何となくかた苦しく感じてしまうことがあります。その点、婦人がメインの建物なら精神的に気楽に来れそうです。

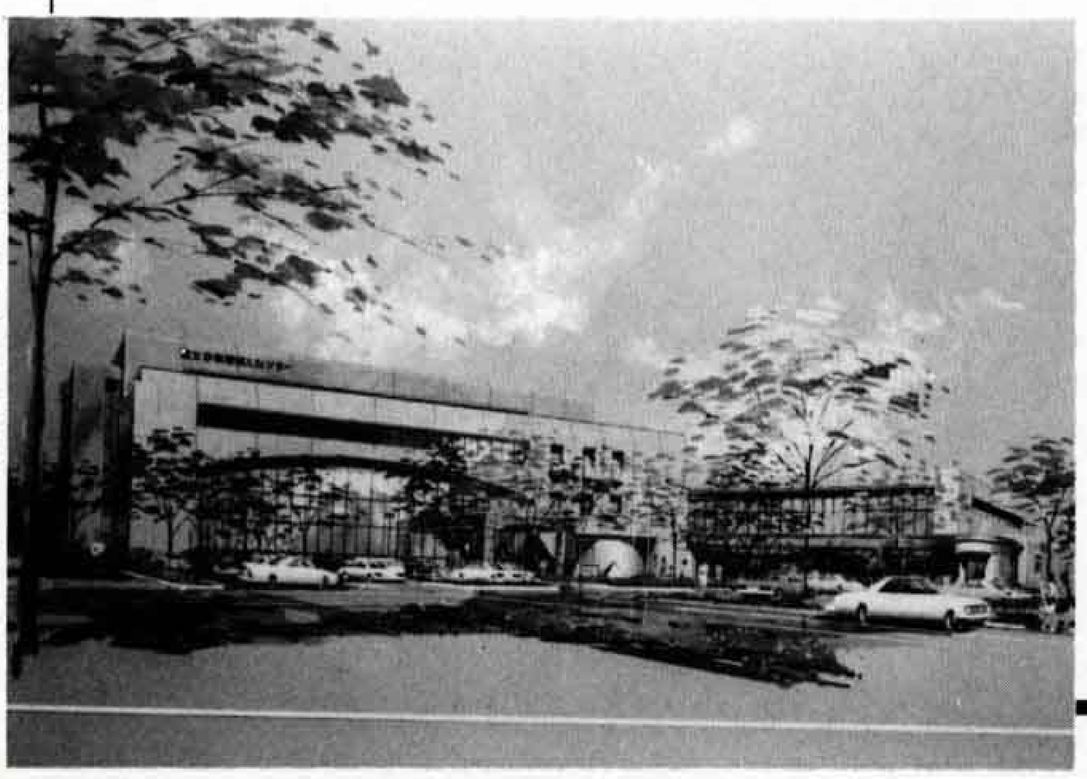
会議室なども簡単に使えるようにしてもらえればありがたいです。

また、婦人の活動が一ヵ所にまとまるということで、婦人のネットワーク化が進むことにも期待しています。

これまで保健活動は健康課、婦人会は社会教育課、ボランティアはボランティアセンター、消費者問題は生活安全課とバラバラだった組織が一つにまとまれば、婦人同士の結束が強くなります。

そして、お互いに情報の交換ができ、おのずと活動の幅も広がるでしょう。

女性の社会参加がますます積極的になるよう、女性の立場に立った保健婦人センターを望みます。



昭和六十三年度に完成する予定の保健婦人センター

田子の浦港ストーリー

青い海を取り戻し、いこいの場へ

田子の浦港は富士市誕生の昭和四十一年、国際貿易港となりました。以来二十年、工業都市富士市発展の土台となってきましたが、その歴史はヘドロ問題などで大きな波がありました。そして今、新しい取り組みも始まっています。

活気あふれる田子の浦港

富士山を水面にいだく

田子の浦港は、古くは「吉原湊（みなと）」と呼ばれていました。雄大な富士山を水面に映し、昔から多くの人が歌や詩にうたったところです。

中でも万葉の歌人山部赤人が、「田子の浦ゆ…」と詠んだのは、あまりにも有名です。

鎌倉時代から東海道のかなめとして栄え、江戸時代には国内各地との交易でにぎわう要所でした。

港をピンチにしたヘドロ（昭和45年）

工業港に変身

風光明媚な吉原湊が現在の田子の浦港として変身し始めたのは、昭和三十三年でした。港は沼川と潤井川の合流点を人工的に堀り込んでつくられていきました。

工事は大きな波が来るため、非常に難しく、完成には十余年の歳月と百三十億円を要しました。

昭和三十六年八月、田子の浦港は開港し、四十一年四月には、「国際貿易港」となりました。今では年間約七千隻が出入りしています。

港に入る主な物は、セメント・石油・チップ・トウモロコシなど、積み出す物は、紙製品・砂利・肥料・製紙機械などです。

こうして、田子の浦港は、工業都市富士市の成長の土台となっていきました。

ヘドロでピンチに

しかし、工業の発展とともに、田子の浦港は大変なピンチを迎えました。

工場排水等からヘドロがたまり、港の機能低下を招いたのです。その上、ヘドロは硫化水素ガスを発生し、住民の健康と生活環境まで脅かすようになったのです。

そこで、昭和四十六年四月から船にヘドロをくみ上げて、富士川の河川敷に運び処理を始めました。

このヘドロの上にできたのが富士川緑地公園です。昭和五十五年には、公害物質は一掃され、港の環境は改善されました。

カーフェリー乗り場にできた富士山歌碑

将来はいこいの場に

現在市は、田子の浦港が市民の皆さんのいこいの場となるような計画を進めています。

本年四月には、山部赤人の歌碑がカーフェリー発着場近くに建てられました。

また、港の東側（元吉原側）には富士山を望める展望台などのある公園の整備が予定されています。

田子の浦港は将来、工業港から市民のいこいの場も備えた港にイメージチェンジすることでしょう。

田子の浦港を二度と汚しちゃいけない

村瀬清一さん（鮫島）漁師

漁師をしていて一番つらかったときは、ヘドロで海が汚れたときだね。とれた魚まで臭くて困ったよ。

最近は、水が随分きれいになってきたけど、魚のとれる量も種類も昔の半分以下かな。港のできる前は、地びき網でマグロやカツオまでとれたこともあったからね。

まあ、とにかく田子の浦港を二度と汚しちゃいけないよ。

こちら編集室

「二十周年特集号の企画、困ったなあ」と、年度初めから困り出し困るに困って半年間。鬼のような編集長は「困るというより二十周年号を担当できるなんていい記念じゃないか」とのお言葉。「物は考えよう」とはまさにこのこと。

さて、できばえのほどは？